

# 市の財政状況と赤字解消への取り組み



新聞などで室蘭市の厳しい財政状況が報道され、市民の皆さんは心配されていることと思います。室蘭市は、基幹産業の好調による税収の増加や行政改革の効果により、一般会計は収支のバランスがとれた予算が組まれています。下水道や港湾、病院などの会計に赤字を抱えています。なぜこのような赤字があるのか、また、赤字の状況やこれをどのように解消しようとしているのか、お知らせします。

《市の財政に関する詳細》 財政課 ☎2268  
<http://www.city.muroran.hokkaido.jp/main/org2300.html>

会計ごとの赤字が発生した  
主な要因(グラフA)

下水道会計

主に先行投資と人口の減少で赤字が発生

市民の皆さんの快適な生活を確保する下水道は、昭和31年度から整備を始めました。下水道の整備には下水処理場やポンプ場の建設のほか、各地区での下水管の敷設など、多額の先行投資が必要です。この投資分を皆さんからの下水道使用料で回収していくこととなりますが、当初は普及率や他市町村との水準を考慮し、使用料を低めに設定し、段階的に上げてきたことや、人口が当初の見込みよりも減少したことなどから投資分の回収が追いつかず、赤字が発生しました。

赤字のピークは平成2年度に約81億8千万円に達しましたが、一般会計からの計画的な繰り出し(税金などの使用)や使用料の改定、維持管理経費の見直しなどにより、平成18年度末では約53億7千万円となっています。

港湾会計

主に景気の低迷で土地が売れず赤字が発生

企業誘致などを目的とした臨海土地造成事業を昭和41年度に始め、崎守・絵鞆・入江地区の順に行いました。しかし、2度のオイルショックや社会情勢の

# 用語解説

**連結実質赤字比率**…地方自治体の全会計の赤字状況を見るため、新たに設けられた比率。平成20年度末において、一定の基準を上回ると「財政再生団体」になる。これまでの法律の「財政再建団体」の基準は、標準財政規模に対する赤字の割合が20%を超える場合とされていた。

**標準財政規模**…地方自治体が、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な、自由に使える財源の規模（市税や交付税等の合計）。



## 病院会計

主に医療制度の改正で赤字が発生。施設の老朽化と皆さんの利便性の向上のため、市立室蘭総合病院を平成9年度に移転新築し、新たに3つの診療科を増設しました。これに伴う診療体制の整備や、移転費用がかさんだことなどから、約6億5千万円の赤字が発生しました。

変化などにより土地の売却が進まず、造成に要した資金を回収できずに赤字が発生しました。赤字のピークは、平成8年度に約113億円に達しましたが、平成18年度末では約97億6千万円となっています。

## 新たな再生法制(新地方財政健全化法)の主な内容

平成14年度からの診療報酬のマイナス改定が収益の減少につながっていることなどから、平成18年度末での赤字は約10億8千万円となっています。

## 赤字の状況(グラフA)

自治体の財政状況を的確に把握するため、一般会計や企業会計など全会計を連結させて赤字の状況を見る連結実質赤字比率を含めた、4つの比率を財政健全化の判断基準とする新しい法律が6月15日に成立しました。

この法律は、平成20年度決算から適用されますが、自治体財政の健全性を判断する具体的な基準が今年の秋から年末にかけて明らかになる予定です。この基準いかんによっては、予算が国の管理下に置かれ、行政サービスの低下など、住民生活にも影響が及びかねません。

このことを回避するため、さまざまな歳入確保策のほか、職員数の縮減、給与構造の見直し、事務事業の見直しなど、あらゆる手立てを講じて早急に赤字を解消していきます。

## 赤字解消の取り組み(グラフB)

平成17年度決算に比べて、一般会計などで約8億3千万円の黒字が増加したことに加え、白鳥台会計で約9億3千万円、下水道会計で約3億5千万円、国保会計で約2億5千万円など、合計で約22億5千万円の赤字を解消しました。

### 平成18年度

平成17年度決算に比べて、一般会計などで約8億3千万円の黒字が増加したことに加え、白鳥台会計で約9億3千万円、下水道会計で約3億5千万円、国保会計で約2億5千万円など、合計で約22億5千万円の赤字を解消しました。

### 今後の対応

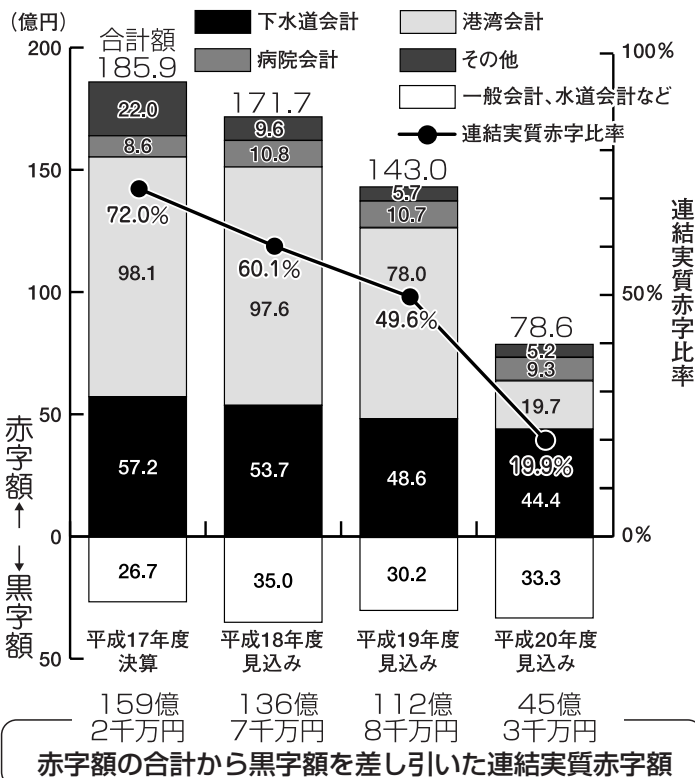
基金や備荒資金などの「市の貯金」や、前年度からの繰越金などを活用した一般会計からの繰り出し(税金などの使用)などにより、港湾・下水道会計を中心に、出来るだけ早く赤字を解消し、最悪の場合でも、連結実質赤字比率が20%を下回るよう、取り組みを続けます。

なお、各会計の赤字解消の目標額や期間などを設定した、具体的な計画を、財政の健全性を判断する基準などが明らかになり次第お知らせする予定です。

皆さんの生活を守り、室蘭の明るい未来を築き上げていくため、赤字の解消を急ピッチで進めていきますので皆さんのご理解をお願いします。



グラフB 連結実質赤字額と比率の推移



グラフA 年度ごとの赤字額の推移

